

# 「わがまち再発見！」

## 陶山訥庵先生

生誕三五〇年祭(4)

対馬市教育委員会 文化財課  
0920(54)2341

対馬聖人(せいじん)「優れた人物」陶山訥庵先生の偉大な業績に対して、いち早く光をあてたのは佐護(上県町)の人たちでした。すなわち、

先生と同じ時代に生きた医者古藤文庵は伝記『訥庵先生事記』を、幕末の唐坊長秋も同じく先生の伝記『陶山先生事状』を書きました。

享保十七年(一七三二)六月に先生がなくなると半年後の十二月、同地のカナグラダンに、島民をイノシシの被害から守った陶山先生と同役の平田類右衛門喬信の功績をたたえ、曠古遺愛(1)の碑をたてました。この碑の文章を書いたのは、二人を敬愛してやまなかつた、もうひとりの碩学(2)雨森芳洲先生です。

ところで、陶山先生の人物と仕事は、早くから地元だけではなく中央でも知られるようになりまし。それは、先生の死からおよそ百年後にできた『先哲叢談』に雨森芳洲先生らとともに名まえが掲載されてからです。生きものを殺してはならないという時代に、人びとに大きな害をもたらしていた八万頭にものぼるイノシシを退治し、対馬の人たちの生活をまもったこと、そして百冊の本を書いたことなどが紹介されました。

まねに見るすぐれた二人の人物の仕事を後の世に語り伝えたいという願いをこめて書いた芳洲先生の文章でした。

明治時代になると『大日本人名辞書』に名前がのり、先生の著作が『日本経済叢書』に収録され、東京大学の渡瀬庄三郎先生は『動物学雑誌』に先生のイノシシ退治の様子をくわしく書きました。昭和四十年代になり、児童文学者の北野道彦さんや木暮正夫さんが書いた、対馬のイノシシ退治の話が児童用図書に掲載されるようになりました。

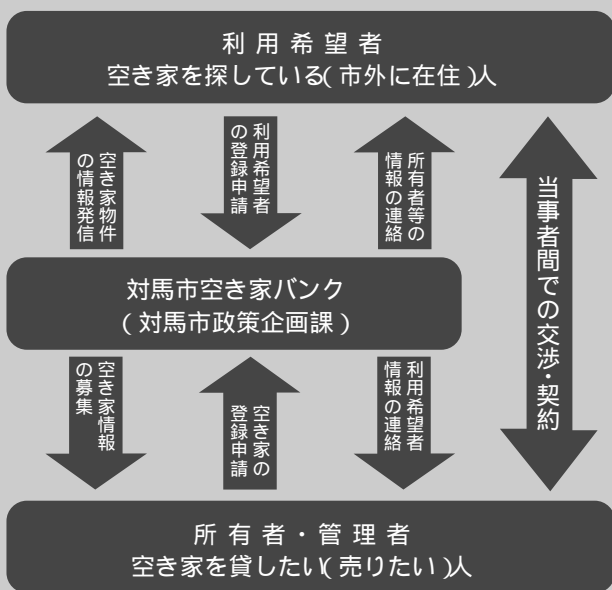
十一月十日には、先生の三五〇回めの誕生日を記念して講演会などありますが、この機会に先生のこと書いてある読み物を集めた本(子ども用)と、人名辞典などにのっている先生の解説文を収録した本(一般用)をつくる準備をしています。(おわり)



『陶山先生事状』...唐坊長秋15歳の時の著作。成立は天保6年(1835)

- (1)曠古「今までにない、空前の遺愛」むかしの人が、後の世の人のために残したいつくしみ
- (2)碩学「学問がひろくふかい人」

## 対馬市空き家バンク制度イメージ図



## 空き屋を登録しませんか？

### 対馬市空き家バンク制度

対馬市では、「空き家」を貸したい、売りたいと思っている方と対馬市で生活するために「空き家」を探している方との橋渡しをするために「対馬市空き家バンク」を創設いたしました。

空き家の登録を希望される方は、下記までご連絡ください。

内容は、対馬市ホームページにも掲載してあります。  
(<http://www.city.tsushima.nagasaki.jp>)

問い合わせ先  
対馬市役所 政策企画課  
担当者 古瀬・梅野・中庭  
0920(53)6111 FAX0920(53)6112  
E mail:kikakuka@city.tsushima.jp